

2018年4月13日発行

神戸学院大学有瀬図書館
展示会通信第45号

Meridian

第43回有瀬図書館ギャラリー展

吾輩は猫である。
名前はまだない。

—冒頭から**惹**きこまれる—

日本文学の書き出し

ある日の暮方の事である。
一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。

2018年4月2日(月)～6月30日(土)

開催場所:神戸学院大学有瀬図書館

本館2階 エントランス展示コーナー

*開催時間や開催期間は変更になることがあります。図書館HP・掲示にて、ご確認のうえご来館ください。

第43回有瀬図書館ギャラリー展では、「一冒頭から惹き込まれる一日本文学の書き出し」と題して、平安時代から大正時代までの日本文学を展示しています。

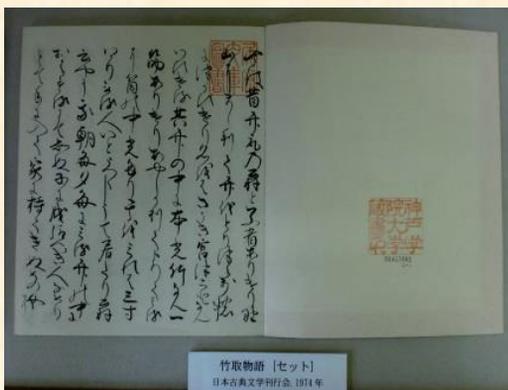
竹取物語から学問のすすめまで、どこかで一度は目にしたことのある文学作品で冒頭文にスポットをあてて展示しています。

普段は閉架資料として閲覧が制限されている資料も含まれています。この機会に、ぜひご覧ください。

冒頭文について

小説は書き出しの表現に惹かれて読み始めることがあります。何に惹かれて、どのような感情が働き、驚いたのか。そういった「かすかな驚き」との遭遇をはたしたとき、小説は特別なものになり、惹き込まれていきます。冒頭文には、そういった働きがあります。

展示資料冒頭文の紹介



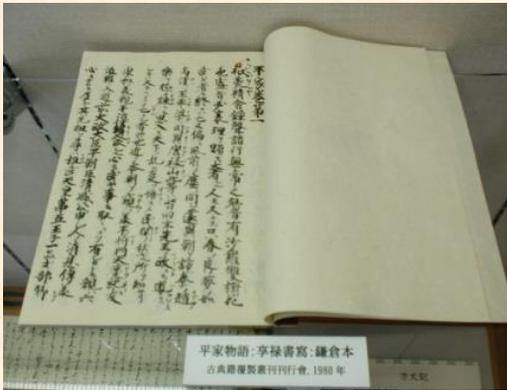
『竹取物語』 作者不詳

今は昔、
竹取の翁といふものありけり。



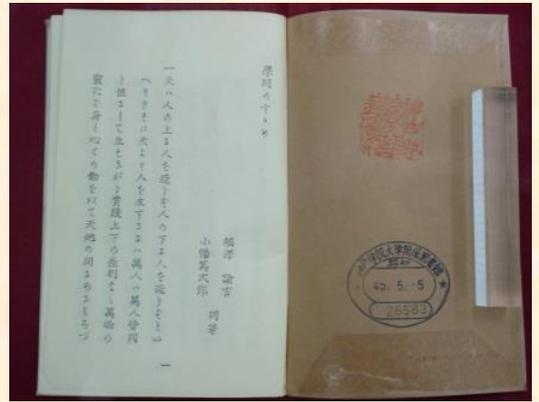
『枕草子』 清少納言

春はあけぼの。



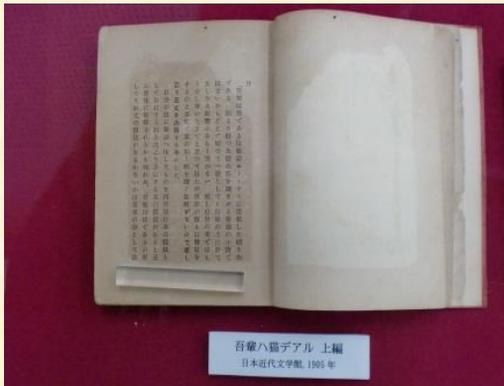
『平家物語』 作者不詳

祇園精舎の鐘の声、
諸行無常の響きあり。



『学問のすすめ』 福沢諭吉

「天は人の上に人を造らず
人の下に人を造らず」と言えり。



『吾輩は猫である』 夏目漱石

吾輩は猫である。



『ころ』 夏目漱石

私はその人を
常に先生と呼んでいた。

展示の様子



編集後記

今回のギャラリー展では、冒頭文をテーマに展示を行いました。

「春はあけぼの」で有名な『枕草子』や夏目漱石の『坊ちゃん』など中学や高校の授業で学んだ文学作品も多くあり、一度は目にしたことのある文章に出会えるはずです。

夏目漱石の『ころ』の直筆原稿など、普段はあまりみることのできない資料を展示しています。

今回の展示を通して、日本文学に興味をもていただければいいと思います。

参考資料

『書き出しは誘惑する』 中村邦夫著 岩波書店, 2014

『小説の書き方』 森村 誠一著 角川書店, 2009

神戸学院大学図書館 展示会通信 MERIDIAN 第45号 2018年4月13日発行

発行・編集:神戸学院大学 有瀬図書館

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

TEL: 078(974)4584 E-mail: pub-lib@j.kobegakuin.ac.jp

ホームページURL: <http://opac.kobegakuin.ac.jp/>